

地元スーパーでの直売支援 (楡葉町の野菜生産農業者)

■ 農業者の状況と課題

- 震災前は楡葉町内の直売所で野菜を販売していたが、震災後直売所の閉鎖により、隣町の直売所等で販売
- 作付面積を拡大する中で、大量販売が可能な地元の販路開拓を強く希望

■ 支援内容と成果

- 官民合同チームにて、楡葉町内で地元産の野菜の販売が可能な事業者をピックアップ
⇒平成30年6月より楡葉町内で営業再開した地元スーパーマーケットに地産地消コーナーの開設を提案
- 「地元でたくさんの野菜を売りたい」という農業者をスーパーマーケットへ紹介するとともに、出荷にあたっての条件交渉やPOP等の販売ツールを作成し、直売コーナーでの販売を支援
⇒平成30年11月から延べ10品目以上の野菜を販売
⇒当該農業者に加え、町内他の農業者の出荷を支援



県外小売店への販売を中心とした販路開拓支援 (飯舘村の行者にんにく生産農業者)

■ 農業者の状況と課題

- 平成24年から行者ニンニクを作付再開するも、相場100gあたり200～300円のところ、80円前後と買い叩かれる状況が継続
- 比較的値崩れしない販路の確保が課題



■ 支援内容と成果

- 自身が農業者であり仲卸経験もある専門家を活用し、新たな販路を開拓
 - ⇒神奈川県を中心に展開するスーパーマーケットへ100gあたり300円以上で販売
 - ⇒更なる販路拡大のため、都内に展開する中華チェーン店へテスト販売
- 将来も継続して販路を確保するため、流通の中核を担うJAと専門家が協働し販売スキームを見直し
 - ⇒梱包、販促シール、出荷場所・頻度等の出荷体制および卸業者含めた流通経路を定め平成31年から運用開始



組織としての販路開拓とブランド化および生産・販売・出荷の環境整備 (川内村のブドウ生産組合)

■ 農業者の状況と課題

- 川内村で水稲育苗ハウスを活用し、ブドウの栽培を行う農業者が集まり設立した任意の生産組合
- 販路に加え、集荷や出荷の運用ルールやツール等なども不足。将来的なブランド化の意向はあるものの、組合として中長期的なビジョンや目標がなく、具体的な戦略立案が課題

■ 支援内容と成果

- 将来的な収穫増を見越して専門家による新規の販路開拓
 - ⇒いわき市内の飲食店を仲介、ブドウを使った洋菓子(タルト・ロールケーキ)を開発、同店舗で販売
 - ⇒次年度以降も取引
- 組合販売に必要な出荷ツールの作成やルール策定、知見の共有
 - ⇒注文票等の出荷に必要なツールや川内村産認証シール等を作成、整備
- 将来的なブランド化を睨んだ取組として、メディア等を活用した広報活動を支援
 - ⇒平成30年8月地元新聞に掲載



地域・集落への営農再開支援（面的支援） （楡葉町での取組）

■ 支援の趣旨

農業者の個別訪問及び支援・フォローアップ活動に加え、さらに営農再開を加速化させるため、地域・集落単位でのまとまった営農再開への支援（面的支援）を実施

■ 楡葉町における支援状況

楡葉町では、平成30年度で農地の保全管理への支援が終了することともに、平成31年度よりカントリーエレベーターが本格稼働することを踏まえ、平成31年度より本格的な営農再開が実施できるよう、支援を実施



農地マッチングの様子

<イベント>

3月 水稲作付推進会議
（営農再開面積目標の共有）

4月 復興組合・担い手との意見交換会

5月 集落座談会
（担い手の作付け意向確認）

8月 農地所有者への一筆ごとの農地利用
の意向調査（アンケート）

10月 農地所有者向け説明会
（今後の諸手続きの説明）

10月 担い手向け座談会
（来年度作付する農地のマッチング）

11月～ 特定農作業受委託契約の締結

<官民合同チーム支援>

農地荒廃を防ぐための新たな支援制度活用の提案

支援制度の説明資料作成
今後必要となる手続き（特定農作業受委託契約）を効率的に進めるための方策提案

農地荒廃を防ぐための作物（ソバ）活用および実証栽培の提案

アンケート未回答者への個別訪問による回収

特定農作業委託契約の説明

酪農家と農業者との耕畜連携支援 (川内村の酪農家と富岡町の飼料作物栽培農業者)

■ 農業者の状況と課題

- 酪農家は、震災後近隣の農業者の避難・営農中止等により、ふん尿（堆肥）の新規受け入れ先の開拓が課題
- 飼料作物（ソルガム）栽培農業者は、除染により失われた地力や土壌環境の回復のために、堆肥を活用した栽培を計画、堆肥の供給先とのマッチングを要望

■ 支援内容と成果

- 川内村の酪農家のふん尿の再利用の課題と富岡町でソルガム栽培を計画していた農業者等（企業及び地元農業者）の要望をマッチング

⇒両者間で堆肥取引が成立

⇒ソルガムの栽培には今後も継続的に堆肥供給が行われるようサポート

⇒あわせて耕畜連携再構築の相双地域全体への波及も期待

- 農業者からソルガム栽培に関する技術指導の要請あり

⇒県内外の関係機関を紹介し、ソルガム栽培・利用の技術指導を支援



ソルガム
(イネ科モロコシ属の飼料作物)